が必要で、自覚して来れば真の労働運動
と云ふことは出来ないのである。

我等は大正十年七月の川崎造船所争議に於て
この最も主題とする、積極的政策を取ること、たゞひたむき
である。之は所謂重役なるものが色になに実を求め
て誠意ある回答をなさず、労働階級の自覚を
蹂躙し、労働者一万七千の意志のあるところを
無視し、組合、自由と工場立憲の精神を圧迫
し、剰さへ幹部を馘首し無頼漢を利用して良
民を偏けることをみて最善の祝福 ―― 即ち工
場管理を提議したのである。

工場管理は会社を思ふたからである。工場管理
は国家を思ふたからである。
工場管理は社会の安寧を思ふたからである。
最後に工場管理は労働者そのものの生活を思
ふたからである。罪に報ゆるに愛を以てし、悪に
報ゆるに最善を以てしたのが工場管理である。
労働者は容易に暴動に導かれることが出来る。
然し我等はその暴動を希望しなかった。
我等の中に一人の負傷者もなく、工場は完全に
労働者によって秩序を維持されて居る。ことを云って
居るから。 我等は会社を愛し国家を愛し
社会を愛し生産業を愛するが故に破壊に代はる
に建設を以てし 暴力に代ふるに最善を以てし
たが 不幸にして会社の門は閉ざされた
我等は工場を閉鎖させて生産品を自ら除外し
ようとしたが、それは其川の一警察署を傾けて武力で
[illegible]

財團 協調會